

# 地域と連携した森林官ハンターの

## 2年目の取り組み

留萌南部森林管理署 首席森林官（古丹別、奥古丹） 小川 翼  
留萌南部森林管理署 一般職員（達布） 宮田 大夢

### 取組の背景・目的

道内におけるエゾシカの推定生息数は、国・道・市町村による様々な対策により着実に減少しており、農林業被害についても電気柵の普及や計画的な個体数管理等により、減少傾向となるなど、一定の成果を挙げています。

一方で各種対策により、エゾシカの行動範囲に変化が生じており、留萌地域においても、**頻繁に市街地や国道等にエゾシカが出没し、この10年間でエゾシカとの交通事故は3倍以上に増加しています。**



防風林に隣接する農道を横切るエゾシカの群れ

このような中で、「**エゾシカが防風林に棲み着いており近隣の農家に被害を与えている**」との情報があり、現地を調査したところ、複数のエゾシカを確認しました。捕獲については、当該防風林が市街地や公道に近いなど**銃猟による有害鳥獣捕獲が困難な場所であり、具体的な捕獲手法も含めて慎重に検討する必要があります**がありました。

地域と連携しつつ、**当該地区を管轄しハンターの立場**から、職務や銃猟による自身の経験や体験、猟友会ネットワーク等を活用して、捕獲事業を進める首席森林官の2年目の取り組みについて紹介します。

### 取組の内容と成果

#### 取組1 近隣住民からの情報収集

- ・エゾシカを目撃箇所
- ・エゾシカとの接触事故箇所

#### 取組2 エゾシカの動向調査

- ・自動撮影カメラや食害、痕跡等により、林内の移動経路を特定し、**出没時期(季節)や時間帯、頭数の把握。**

※調査の結果、4月雪解け時期に出没し始め、積雪後は越冬場所に移動することが判明（**厳寒期の痕跡なし**）。このため、エゾシカが**越冬地からエサを求めて防風林内に出没する4月から5月とエサの少なくなった10月から11月が捕獲の適期と想定。**



#### 自動撮影カメラ等で防風林内の動向調査



深夜2時に防風林内を移動する雄シカ（赤外線カメラ画像）

#### 成果1 銃猟が可能な場所の選定（猟友会や地域住民より意見聴取）

- ・人の立ち入る農地周辺以外でバックストップが存在する狙撃ポイントの把握

#### 成果2 銃猟以外の捕獲手法の情報収集（公道や民家周辺）

- ・夜間でも捕獲が可能な囲いわな、くくりわな、箱わな等の活用
- ・「止めさし」手法の検討（地元ハンターへの協力依頼）

### 今後の展開

- ・今後は、季節毎のエゾシカ動向に基づき、**捕獲の有効な場所や手法について関係機関等と引き続き調整していきます。**
- ・目撃の多かった防風林内のポイントに**囲いわな等を設置する予定です。**

※職員のみによる「**囲いわな**」での捕獲の実例は少ないため、委託事業等の情報や地元猟友会の協力を得つつ「**安全**」に実施していきます。



囲いわなの研修会に参加



囲いわな設置場所の選定